

授業概要

高校生以前の教科書・資料集・年表などで見てきた「歴史的事実」は、何を根拠とし、如何にして「歴史的事実」であると考えられるようになったのでしょうか。本授業では、古代から中世に至るまで、高校以前の日本史でも習うような事柄について、その根拠となった史資料そのものを実際に読むことで、ただ単に「歴史的事実」を暗記的に覚えるのではなく、その「歴史的事実」が如何にして組み上げられたものかについて講義します。

併せて2024年に放送された大河ドラマ『光る君へ』を視聴し、時代劇で描かれる様子を実際の史料を使用して検証します。

授業では実際にいくつかの史資料を音読していただきます。その史資料にどのようなことが書かれているのかを考え、その内容から、各回扱う「歴史的事実」について、なぜそう言えるのかを検証します。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	基礎知識について(官職名、旧国名、史料と資料、など)
第3回	史資料とデータベース—インターネットを駆使して—
第4回	『日本書紀』の信憑性—「郡評論争」から—
第5回	時代劇は史実に忠実か?—大河ドラマ『光る君へ』を例に—①
第6回	時代劇は史実に忠実か?—大河ドラマ『光る君へ』を例に—②
第7回	時代劇は史実に忠実か?—大河ドラマ『光る君へ』を例に—③
第8回	時代劇は史実に忠実か?—大河ドラマ『光る君へ』を例に—④
第9回	時代劇は史実に忠実か?—大河ドラマ『光る君へ』を例に—⑤
第10回	史資料講読①
第11回	史資料講読②
第12回	史資料講読③
第13回	史資料講読④
第14回	史資料講読⑤
第15回	まとめ
第16回	期末レポート

到達目標

- ・史資料という根拠に基づく論理的思考力を伸ばすことができる。
- ・日本史を暗記科目として捉える意識を改めることができる。
- ・日本史関連の卒論や期末レポートを作成する際に、実際に史資料を利用して執筆できる。

履修上の注意

- ・高校の日本史B程度の情報を把握しておくこと。
- ・「日本史学入門」「日本史特論(近世以前)」の授業を受講していると望ましい。
- ・大学生・成人としての自覚と責任を以て授業に臨むこと。

予習・復習

- ・【予習】授業中に、取り上げた史資料の音読・現代語訳をして頂く。毎回事前に授業レジュメを配布するので、辞書などで調べて読めるようになっておくこと。
- ・【復習】読めなかったところ・誤ったところを確認し、次は読めるようにしておくこと。

評価方法

学期末に実施するレポートと、毎回授業時のコメントペーパーで評価する。
レポート(70%)、授業態度(コメントペーパー含む)(30%)

テキスト

教科書は指定しない。参考書：漢和・古語・日本史などの辞典類。
その他、関係する文献について、授業中に適宜紹介する。